

静岡市の子どもたちにとって望ましい教育環境についてのアンケート

【集計・分析調査結果】概要版

I 調査の概要

1. 調査の目的

平成 28 年 9 月に策定した「静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針」の改定に伴い、静岡市教育委員会にて実施した市立小・中学校に通う子どもの保護者及び未就学児の保護者代表を対象とした適正規模・適正配置にかかわるアンケート調査「静岡市の子どもたちにとって望ましい教育環境について」の回答データを集計・分析することで、より保護者の意向を本方針改定の参考とすることを目的とする。

2. 調査の方法

調査方法：【小・中学生調査】小・中学校を通じて各家庭へ配布・ウェブ回答
 【未就学児調査】こども園を通じて保護者代表（1～2人）へ配布・ウェブ回答

調査期間：【小・中学生調査】令和 4 年 7 月 15 日～令和 4 年 8 月 2 日
 【未就学児調査】令和 4 年 8 月 8 日～令和 4 年 8 月 19 日

3. 回収状況

調査種類	対象者	対象人数（家庭）	有効回収数	有効回収率
小・中学生調査	静岡市立小・中学校に通う子どもがいる保護者（家庭）	37,053 人（1 家庭 1 回答）	10,880 票	29.4%
未就学児調査	静岡市立こども園に通う子どもがいる保護者代表	110 人（各施設 2 人）	72 票	65.5%

II 調査の結果

お子さんの通学・通園状況（基本属性）

学校の所在地

*未就学は通学予定の小学校の所在地

	葵区	駿河区	清水区	わからない	その他
小学校 (n=8,630)	44.2%	27.3%	28.5%		
中学校 (n=2,250)	43.8%	22.4%	33.7%		
未就学 (n=72)	25.0%	25.0%	40.3%	6.9%	2.8%

学校の規模

*未就学は通学予定の小学校の規模

	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校	わからない	その他
小学校 (n=8,630)	1.0%	12.7%	66.4%	17.2%	2.7%		
中学校 (n=2,250)	2.1%	18.9%	78.9%	0.0%	0.0%		
未就学 (n=72)	4.2%	16.7%	55.6%	8.3%	5.6%	6.9%	2.8%

学 年

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	その他
小学校 (n=8,630)	21.0%	20.0%	17.0%	15.1%	14.0%	12.8%	0.2%
中学校 (n=2,250)	36.4%	34.5%	28.9%				0.3%

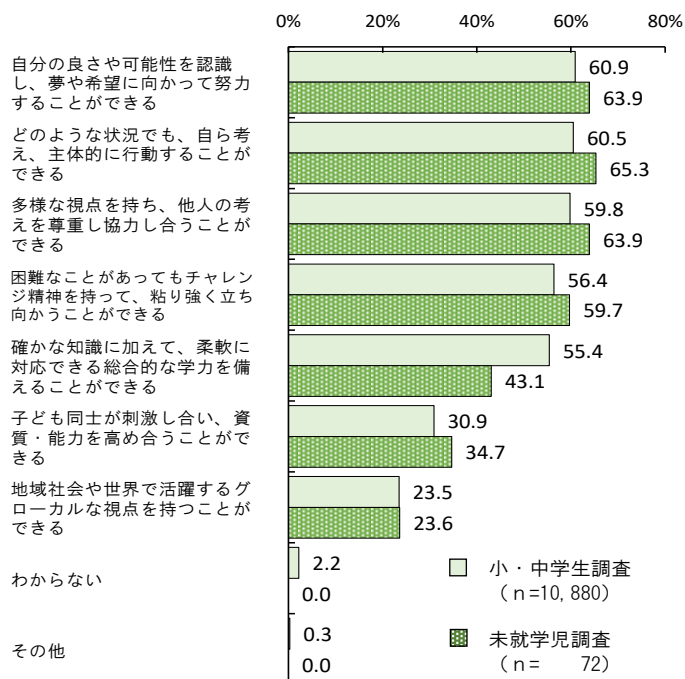
通学時間

	15 分以内	30 分以内	45 分以内	60 分以内	60 分以上
小学校 (n=8,630)	58.3%	34.0%	6.9%	0.9%	0.1%
中学校 (n=2,250)	52.4%	42.6%	4.5%	0.4%	0.0%

通学方法

（複数選択可）	徒歩	自家用車	自転車	バス	電車	その他
小学校 (n=8,630)	98.3%	4.8%	0.2%	1.5%	0.1%	0.0%
中学校 (n=2,250)	85.1%	2.6%	13.6%	1.6%	0.7%	0.0%

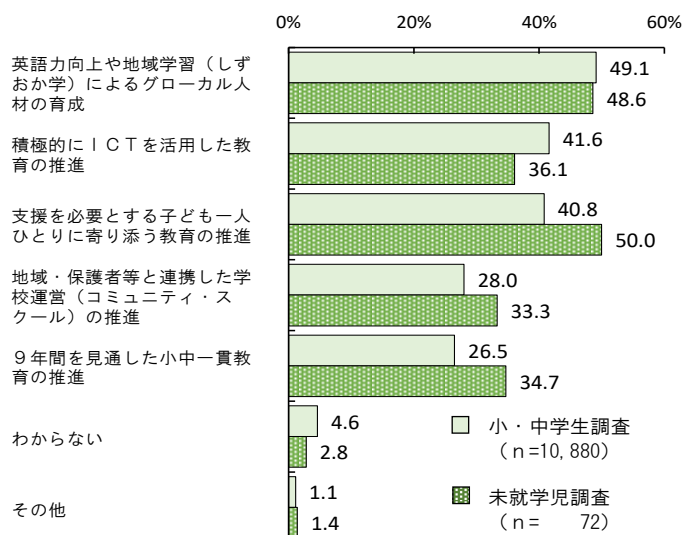
静岡市の目指す子どもの姿について、大切だと考える姿（複数選択可）



小・中学生調査では、「自分の良さや可能性を認識し、夢や希望に向かって努力することができる」が60.9%と最も多く、次いで「どのような状況でも、自ら考え、主体的に行動することができる」が60.5%、「多様な視点を持ち、他人の考えを尊重し協力し合うことができる」が59.8%などとなっています。

未就学児調査では、「どのような状況でも、自ら考え、主体的に行動することができる」が65.3%と最も多く、次いで「自分の良さや可能性を認識し、夢や希望に向かって努力することができる」、「多様な視点を持ち、他人の考えを尊重し協力し合うことができる」がそれぞれ63.9%、「困難なことがあってもチャレンジ精神を持って、粘り強く立ち向かうことができる」が59.7%などとなっています。

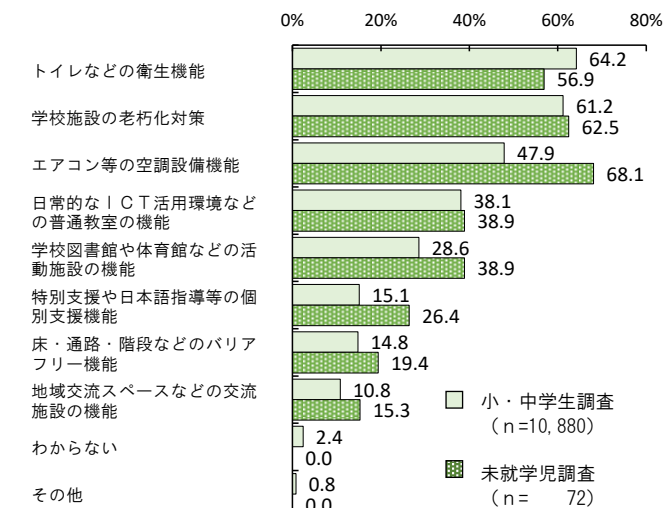
小・中学校に期待する特色ある教育活動（複数選択可）



小・中学生調査では、「英語力向上や地域学習（しずおか学）によるグローバル人材の育成」が49.1%と最も多く、次いで「積極的にICTを活用した教育の推進」が41.6%、「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添う教育の推進」が40.8%などとなっています。

未就学児調査では、「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添う教育の推進」が50.0%と最も多く、次いで「英語力向上や地域学習（しずおか学）によるグローバル人材の育成」が48.6%、「積極的にICTを活用した教育の推進」が36.1%などとなっています。

学校施設・整備の充実について望むこと（複数選択可）

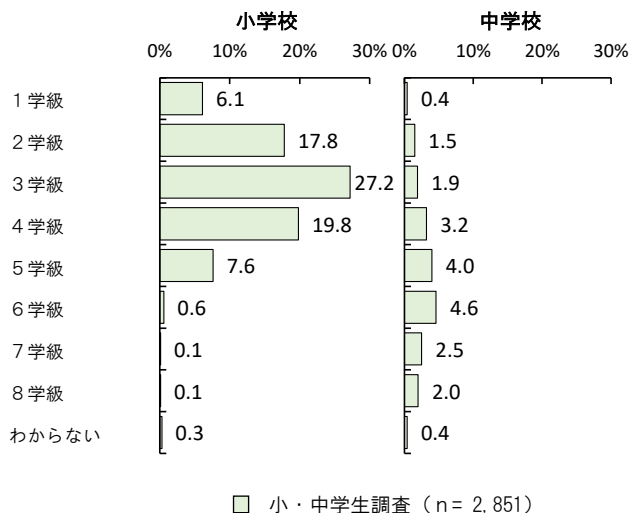


小・中学生調査では、「トイレなどの衛生機能」が64.2%と最も多く、次いで「学校施設の老朽化対策」が61.2%、「エアコン等の空調設備機能」が47.9%などとなっています。

未就学児調査では、「エアコン等の空調設備機能」が68.1%と最も多く、次いで「学校施設の老朽化対策」が62.5%、「トイレなどの衛生機能」が56.9%などとなっています。

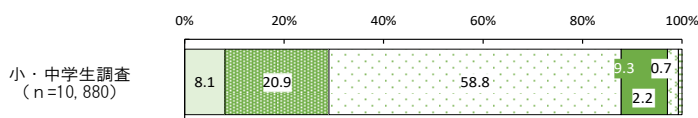
お子さんが在籍している学年の学級数

1) お子さんが在籍している学年の学級数



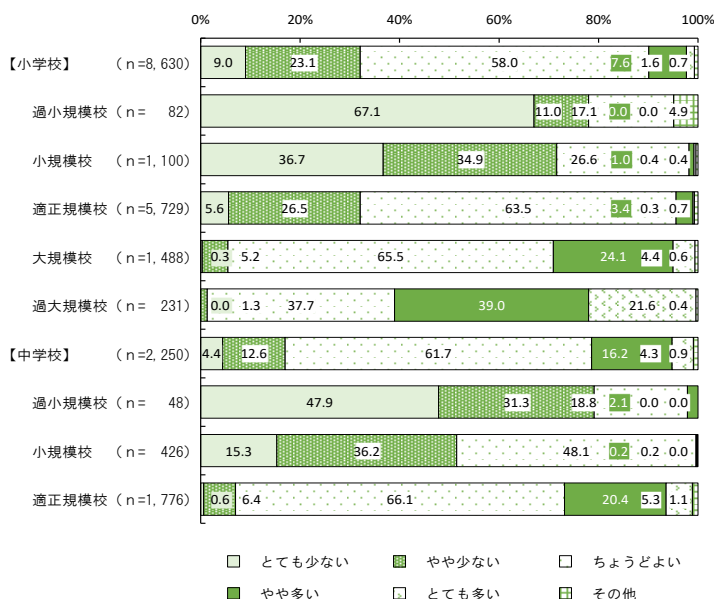
お子さんが在籍している学年の学級数は、「【小学校】3学級」が27.2%と最も多く、次いで「【小学校】4学級」が19.8%、「【小学校】2学級」が17.8%などとなっています。

2) お子さんが在籍している学年の学級数についての考え



お子さんが在籍している学年の学級数についての考えは、「ちょうどよい」が58.8%と最も多く、次いで「やや少ない」が20.9%、「やや多い」が9.3%などとなっています。また、『少ない』（とても少ない+やや少ない）は29.0%、『多い』（とても多い+やや多い）は11.5%となっています。

学校の種類別・学校の規模別

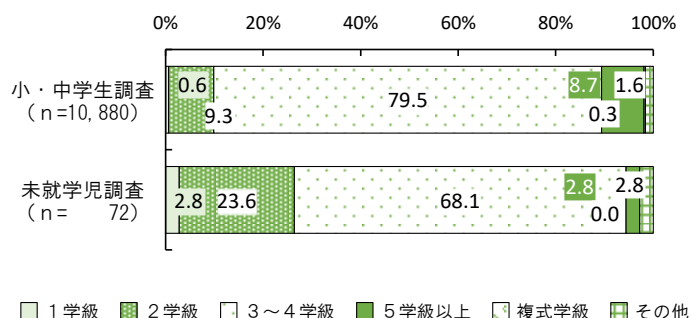


学校の種類別でみると、「小学校」で『少ない』が多く、『多い』が少なくなっています。

学校の規模別でみると、「小学校」過小規模校・「小学校」小規模校・「中学校」過小規模校で『少ない』が7割を超えて多く、「小学校」過大規模校で『多い』が約6割と多くなっています。また、「小学校」適正規模校・「小学校」大規模校・「中学校」適正規模校で「ちょうどよい」が6割を超えて多くなっています。

小・中学校における望ましいと思う1学年あたりの学級数とその理由

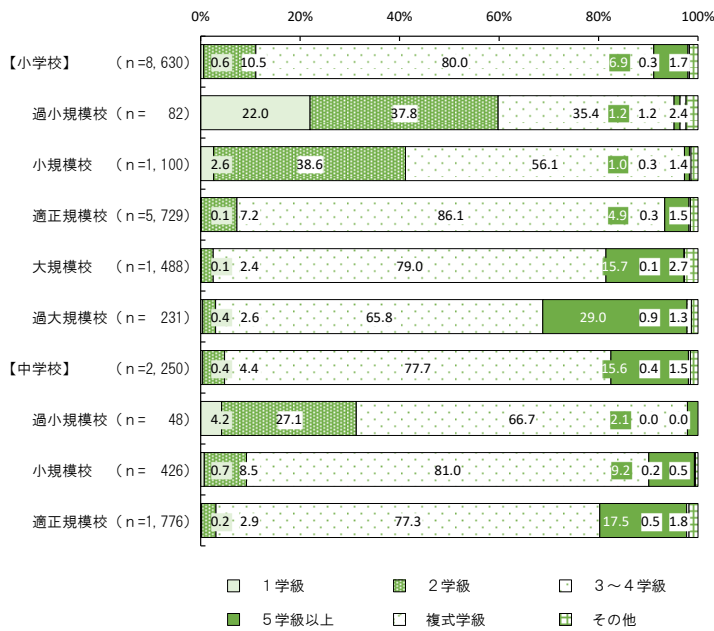
1) 小学校における1学年あたりの学級数



小・中学生調査では、「3~4学級」が79.5%と突出しています。

未就学児調査では、「3~4学級」が68.1%と最も多く、次いで「2学級」が23.6%、「1学級」、「5学級以上」、「その他」がそれぞれ2.8%となっています。

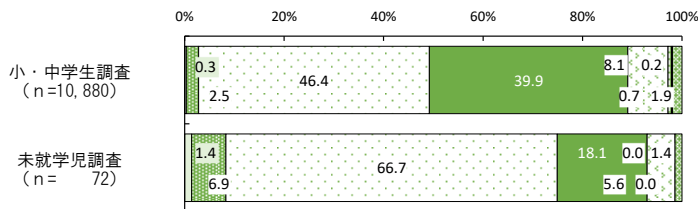
学校の種類別・学校の規模別



学校の種類別で見ると、「小学校」で「2学級」が多く、「5学級以上」が少なくなっています。

学校の規模別で見ると、「【小学校】過小規模校」で「1学級」が2割を超えて多く、「3~4学級」が4割を下回って少なくなっています。また、「【小学校】過小規模校」・「【小学校】小規模校」で「2学級」が3割を超えて多く、「【小学校】過大規模校」で「5学級以上」が約3割と多くなっています。

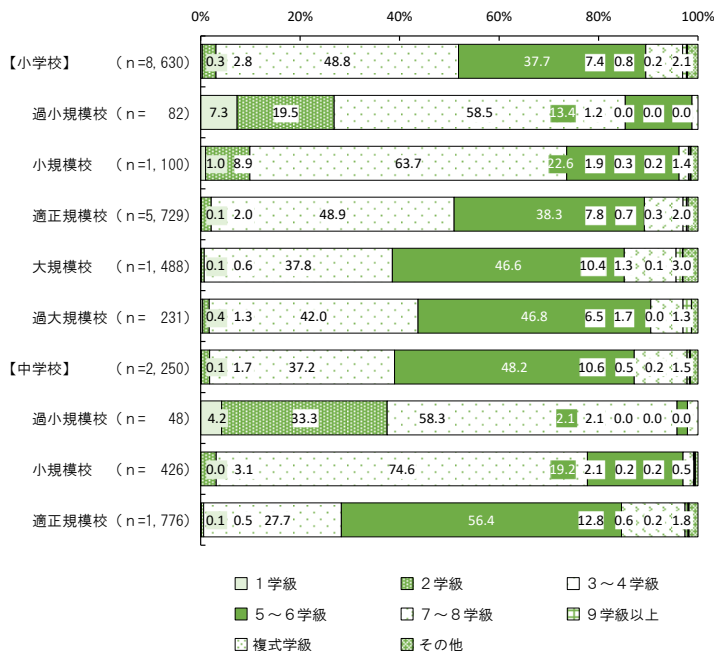
2) 中学校における1学年あたりの学級数



小・中学生調査では、「3~4学級」が46.4%と最も多く、次いで「5~6学級」が39.9%、「7~8学級」が8.1%などとなっています。

未就学児調査では、「3~4学級」が66.7%と最も多く、次いで「5~6学級」が18.1%、「2学級」が6.9%などとなっています。

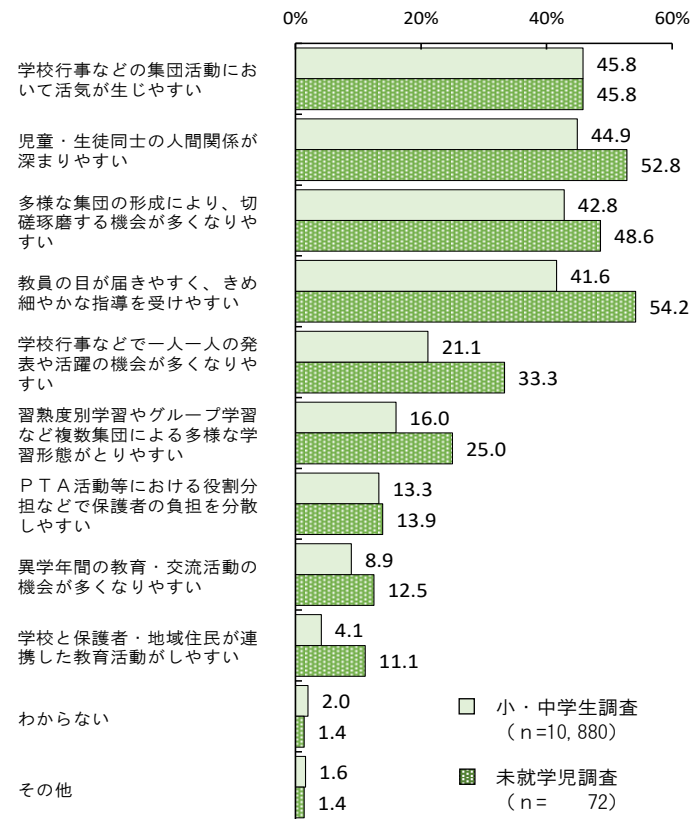
学校の種類別・学校の規模別



学校の種類別で見ると、「小学校」で「3~4学級」が多く、「5~6学級」が少なくなっています。

学校の規模別で見ると、「【小学校】大規模校」・「【中学校】適正規模校」で「7~8学級」が1割を超えて多く、「【中学校】過小規模校」で「2学級」が3割を超えて多くなっています。また、「【中学校】小規模校」で「3~4学級」が7割を超えて多く、「【中学校】適正規模校」で「5~6学級」が半数を超えて多くなっています。

3) ①小学校における1学年あたりの学級数として、その学級数を選択した理由（複数選択可）



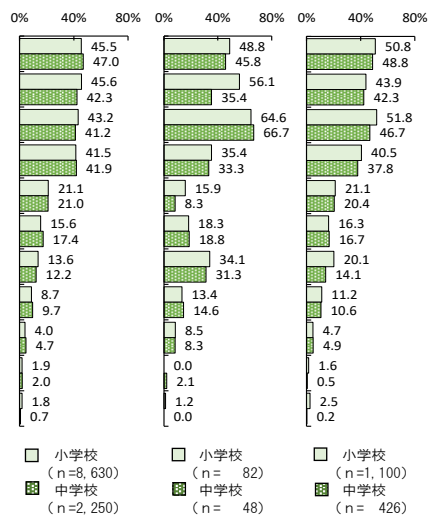
小・中学生調査では、「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が45.8%と最も多く、次いで「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が44.9%、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が42.8%などとなっています。

未就学児調査では、「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」が54.2%と最も多く、次いで「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が52.8%、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が48.6%などとなっています。

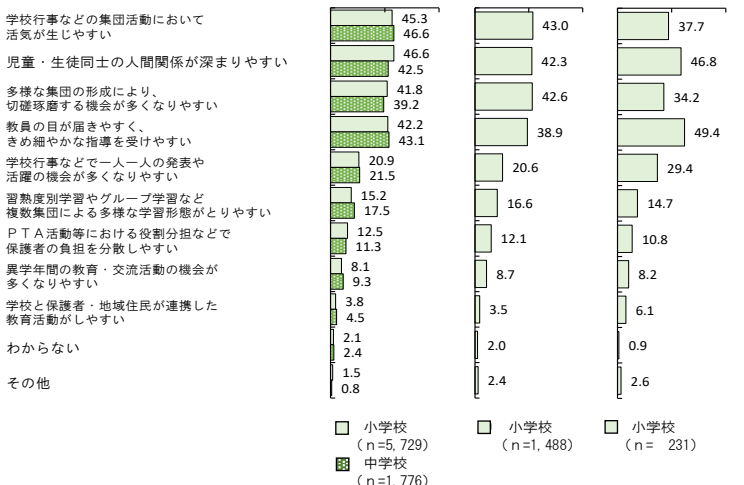
学校の種類別

学校の種類別でみると、大きな差異はみられません。

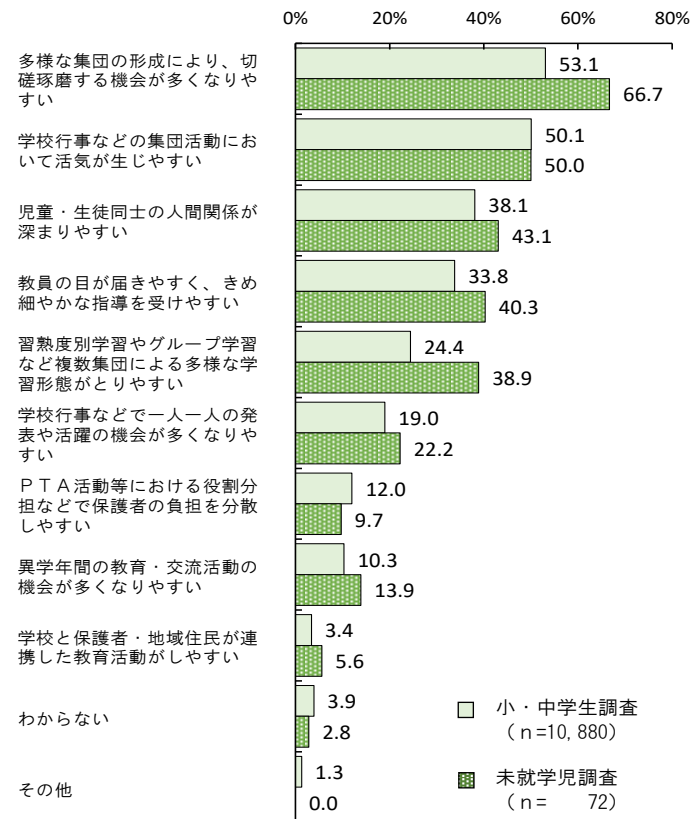
学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」、「P T A 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が多くなっています。また、「【小学校】過小規模校」で「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が半数を超えて多く、「【中学校】過小規模校」で「学校行事などで一人一人の発表や活躍の機会が多くなりやすい」が1割を下回って少なくなっています。



学校の規模別



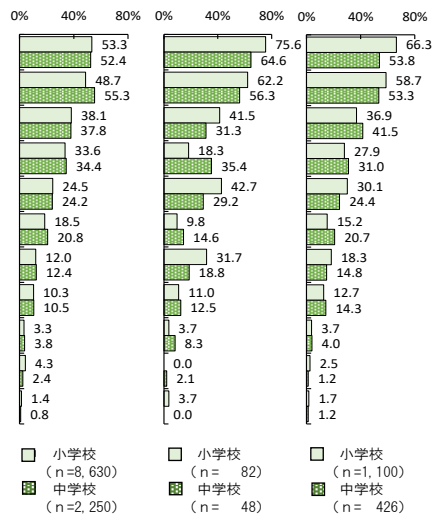
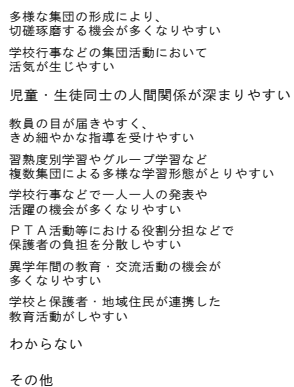
3) ②中学校における1学年あたりの学級数として、その学級数を選択した理由(複数選択可)



小・中学生調査では、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が53.1%と最も多く、次いで「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が50.1%、「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が38.1%などとなっています。

未就学児調査では、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が66.7%と最も多く、次いで「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が50.0%、「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が43.1%などとなっています。

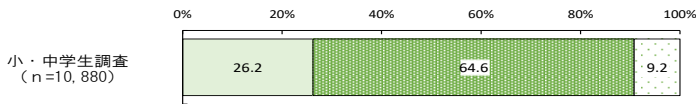
学校の種類別



学校の種類別でみると、「小学校」で「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が少なくなっています。

学校の規模別でみると、「【小学校】過小規模校」で「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」、「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」、「習熟度別学習やグループ学習など複数集団による多様な学習形態がとりやすい」、「P T A 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が多く、「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」が2割を下回って少なくなっています。

現在の学級数と比べた望ましいと思う1学年あたりの学級数

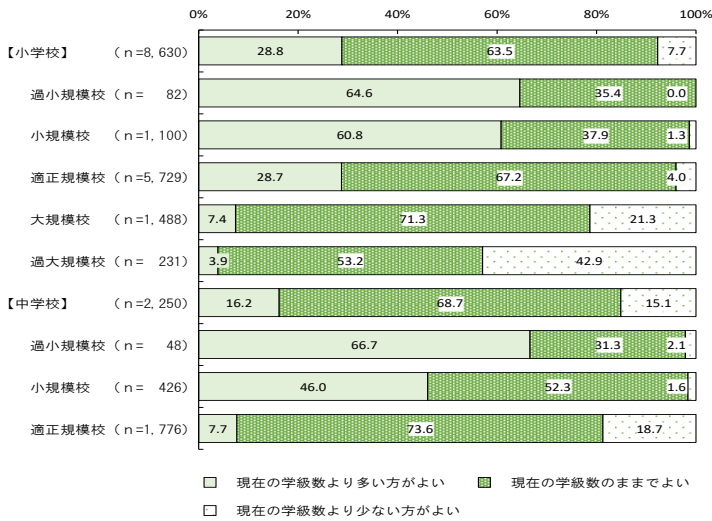


現在の学級数と比べて望ましいと思う1学年あたりの学級数は、「現在の学級数のままでよい」が64.6%と最も多く、次いで「現在の学級数より多い方がよい」が26.2%、「現在の学級数より少ない方がよい」が9.2%となっています。

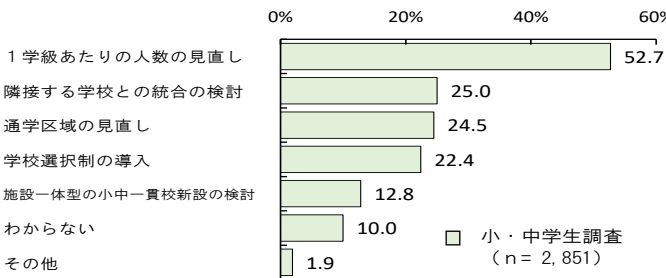
学校の種類別でみると、《小学校》で「現在の学級数より多い方がよい」が多く、「現在の学級数のままでよい」、「現在の学級数より少ない方がよい」が少なくなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】過小規模校》・《【小学校】小規模校》・《【中学校】過小規模校》で「現在の学級数より多い方がよい」が6割を超えて多く、《【小学校】大規模校》・《【中学校】適正規模校》で「現在の学級数のままでよい」が7割を超えて多くなっています。また、《【小学校】過大規模校》で「現在の学級数より少ない方がよい」が4割を超えて多くなっています。

学校の種類別・学校の規模別



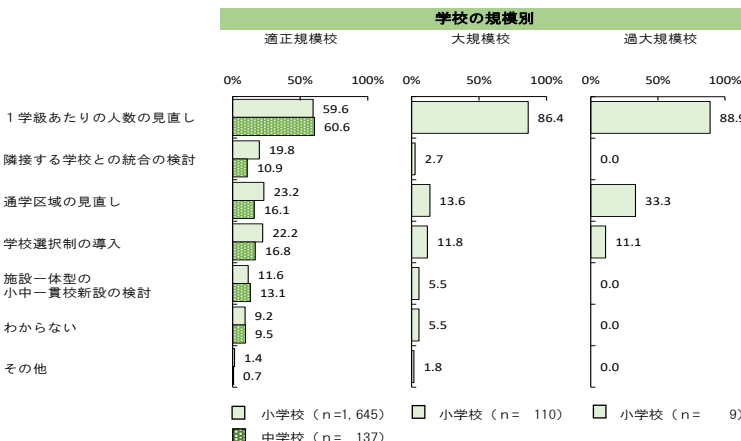
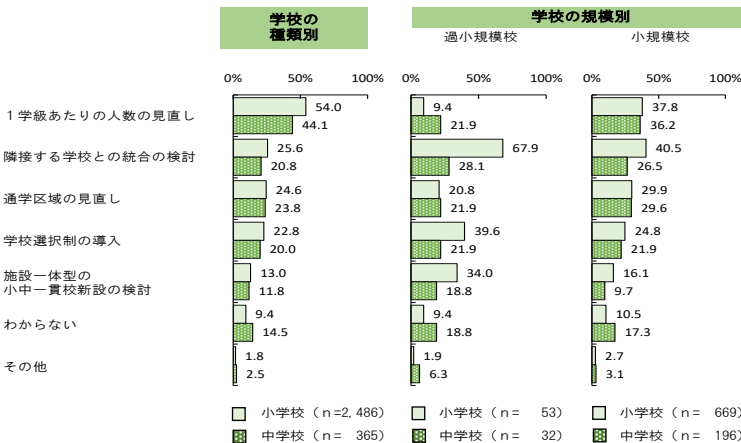
1) 現在の学級数よりも多い学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応 (複数選択可)



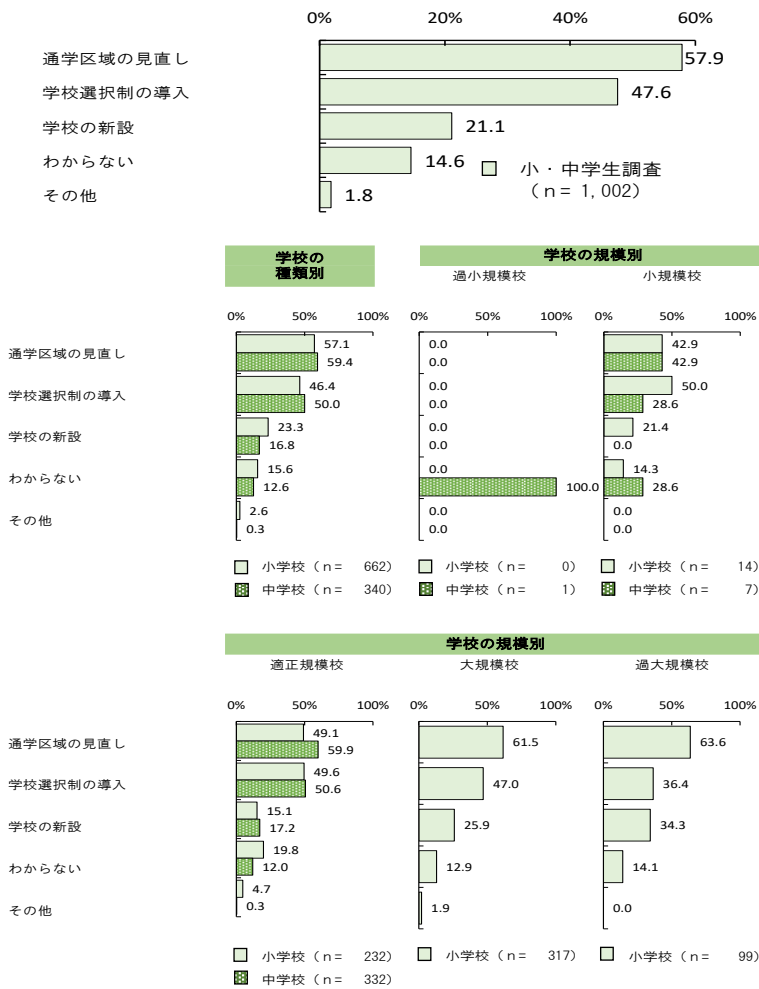
現在の学級数よりも多い学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応は、「1学年あたりの人数の見直し」が52.7%と最も多く、次いで「隣接する学校との統合の検討」が25.0%、「通学区域の見直し」が24.5%などとなっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「1学年あたりの人数の見直し」が多くなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】過小規模校》で「1学年あたりの人数の見直し」が約1割と少なく、「隣接する学校との統合の検討」、「学校選択制の導入」、「施設一体型の小中一貫校新設の検討」が多くなっています。また、《【小学校】大規模校》・《【中学校】適正規模校》で「通学区域の見直し」が2割を下回って少なくなっています。



2) 現在の学級数よりも少ない学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応（複数選択可）

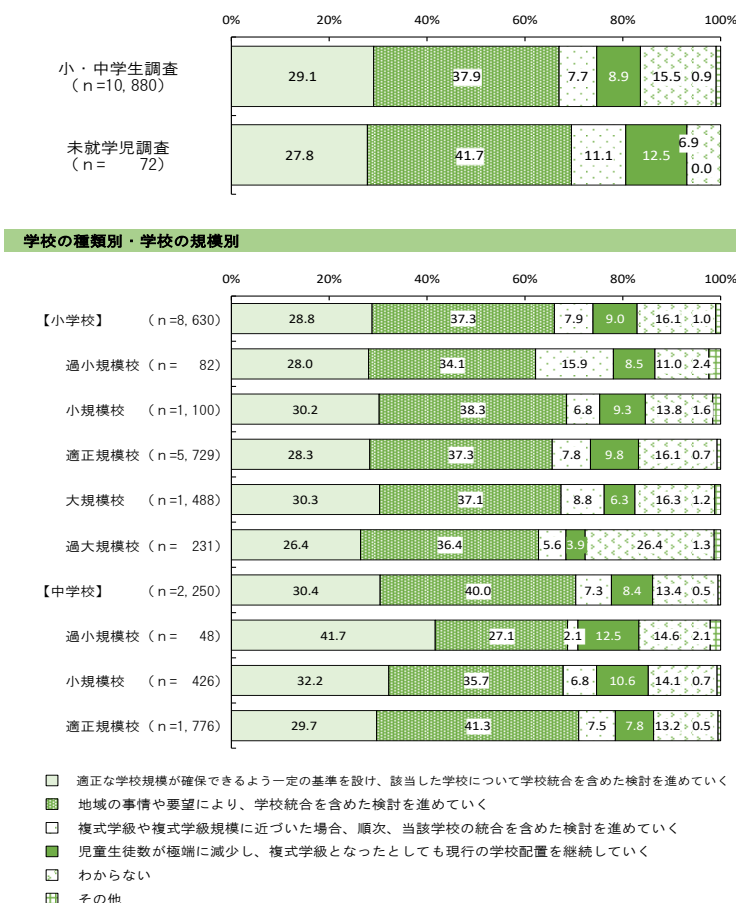


現在の学級数よりも少ない学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応は、「通学区の見直し」が57.9%と最も多く、次いで「学校選択制の導入」が47.6%、「学校の新設」が21.1%などとなっています。

学校の種類別でみると、「小学校」で「学校の新設」が多くなっています。

学校の規模別でみると、「【小学校】適正規模校」で「通学区の見直し」が約半数と少なくなっています。また、「【小学校】過大規模校」で「学校選択制の導入」が4割を下回って少なく、「学校の新設」が3割を超えて多くなっています。

今後、児童生徒数が大きく減少する学校についてよいと思う対応



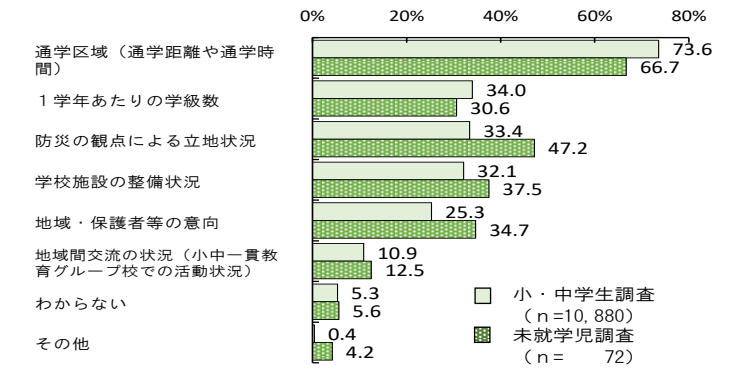
小・中学生調査では、「地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく」が37.9%と最も多く、次いで「適正な学校規模が確保できる」一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」が29.1%、「わからない」が15.5%などとなっています。

未就学児調査では、「地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく」が41.7%と最も多く、次いで「適正な学校規模が確保できる」一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」が27.8%、「児童生徒数が極端に減少し、複式学級となったとしても現行の学校配置を継続していく」が12.5%などとなっています。

学校の種類別でみると、大きな差異はみられません。

学校の規模別でみると、「【小学校】過小規模校」で「複式学級や複式学級規模に近づいた場合、順次、当該学校の統合を含めた検討を進めていく」が1割を超えて多く、「【中学校】過小規模校」で「適正な学校規模が確保できる」一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」が4割を超えて多くなっています。また、「【中学校】過小規模校」・「【中学校】小規模校」で「児童生徒数が極端に減少し、複式学級となったとしても現行の学校配置を継続していく」が1割を超えて多く、「【中学校】適正規模校」で「地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく」が4割を超えて多くなっています。

一定の学校規模や学校配置を検討するにあたり、重視して考える必要があると考えること（複数選択可）

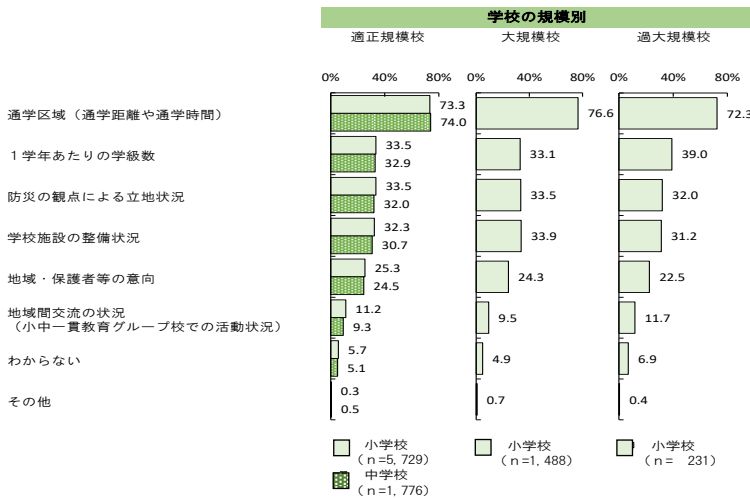
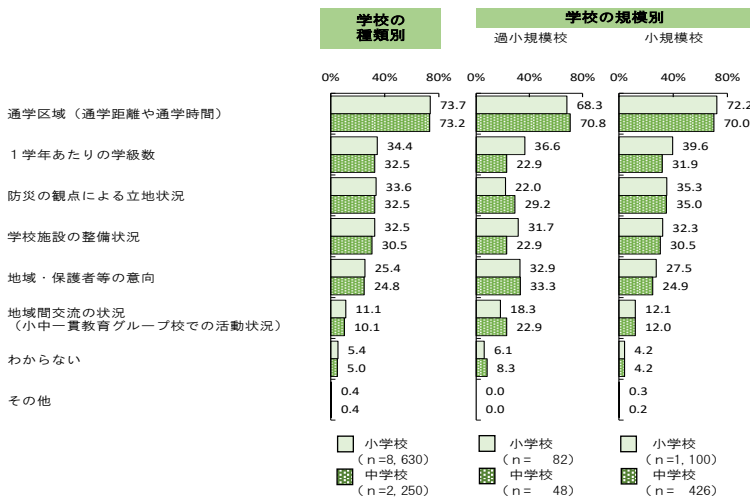


小・中学生調査では、「通学区域（通学距離や通学時間）」が73.6%と最も多く、次いで「1学年あたりの学級数」が34.0%、「防災の観点による立地状況」が33.4%などとなっています。

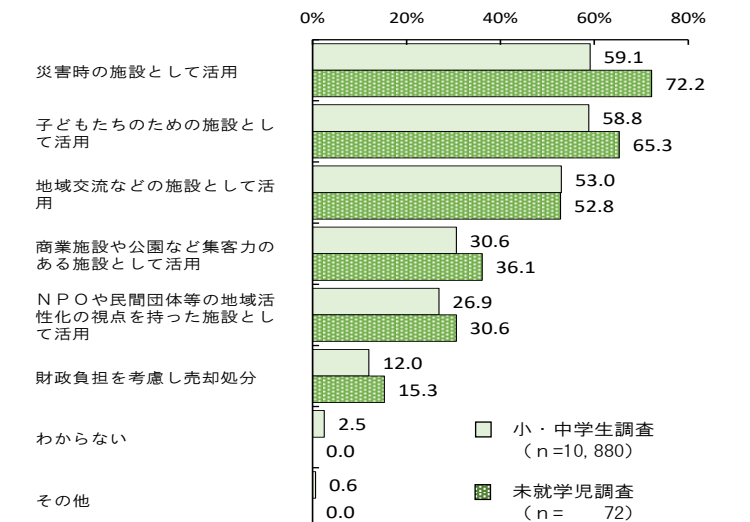
未就学児調査では、「通学区域（通学距離や通学時間）」が66.7%と最も多く、次いで「防災の観点による立地状況」が47.2%、「学校施設の整備状況」が37.5%などとなっています。

学校の種類別でみると、大きな差異はみられません。

学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに《過小規模校》で「防災の観点による立地状況」が3割を下回って少なく、「地域・保護者等の意向」が3割を超えて多くなっています。また、《【小学校】過小規模校》で「通学区域（通学距離や通学時間）」が7割を下回って少なくなっています。さらに、《【中学校】過小規模校》で「1学年あたりの学級数」、「学校施設の整備状況」が少なく、「地域間交流の状況（小中一貫教育グループ校での活動状況）」が2割を超えて多くなっています。

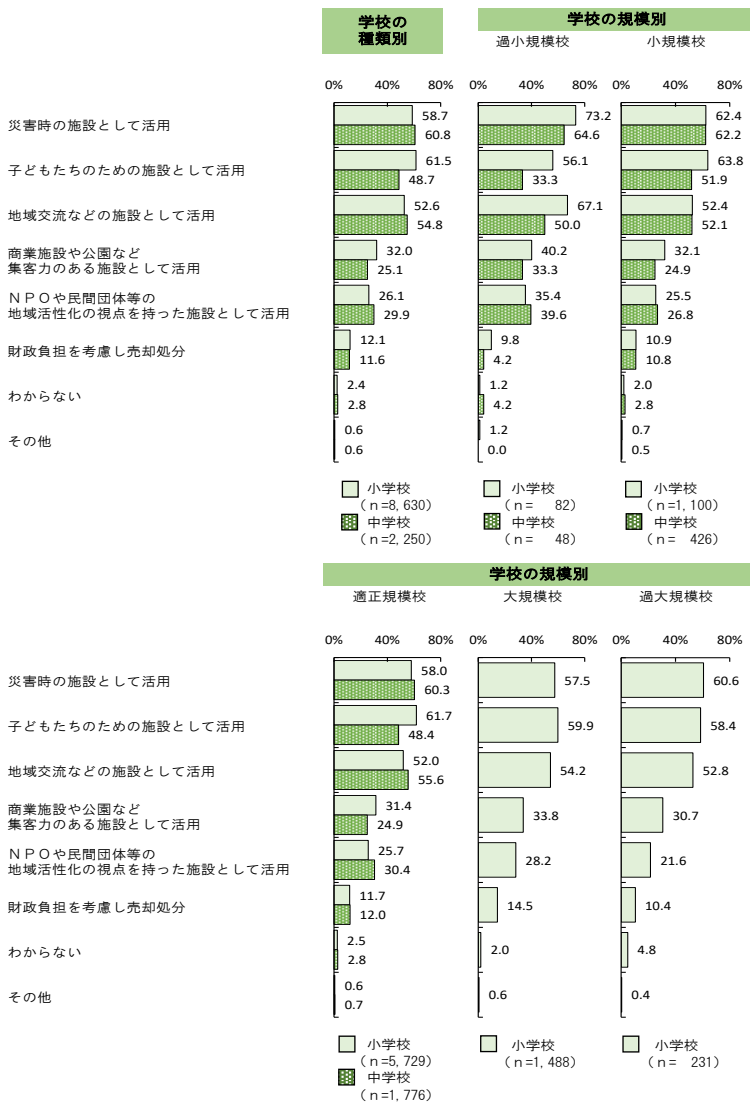


今後、学校統合などで学校が空き施設となった場合、望ましいと思う活用（複数選択可）



小・中学生調査では、「災害時の施設として活用」が59.1%と最も多く、次いで「子どもたちのための施設として活用」が58.8%、「地域交流などの施設として活用」が53.0%などとなっています。

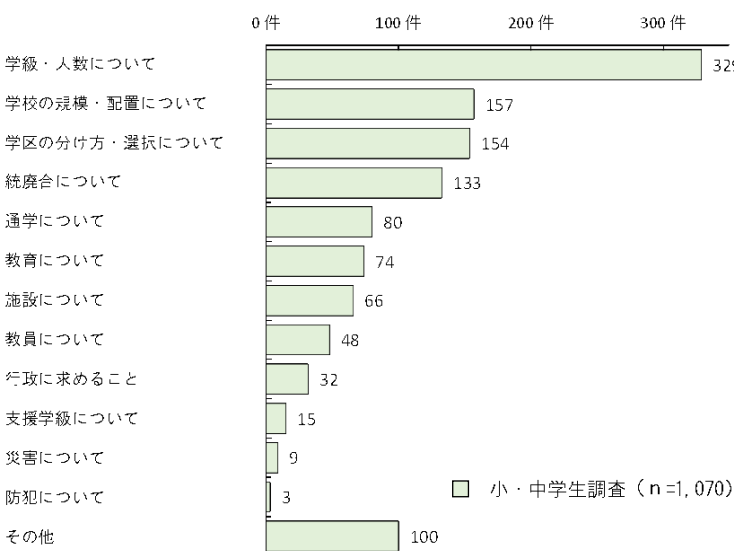
未就学児調査では、「災害時の施設として活用」が72.2%と最も多く、次いで「子どもたちのための施設として活用」が65.3%、「地域交流などの施設として活用」が52.8%などとなっています。



学校の種類別でみると、「小学校」で「子どもたちのための施設として活用」、「商業施設や公園など集客力のある施設として活用」が多くなっています。

学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに「過小規模校」で「財政負担を考慮し売却処分」が1割を下回って少なくなっています。また、「【小学校】過小規模校」で「災害時の施設として活用」、「地域交流などの施設として活用」、「商業施設や公園など集客力のある施設として活用」が多く、「【小学校】過小規模校」・「【中学校】過小規模校」・「【中学校】適正規模校」で「NPOや民間団体等の地域活性化の視点を持った施設として活用」が3割を超えて多くなっています。さらに、「【中学校】過小規模校」で「子どもたちのための施設として活用」が4割を下回って少なくなっています。

市立小・中学校の適正規模・適正配置についてご意見



市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する意見を自由回答形式で聞いたところ、1,070人から1,200件の意見等があり、テーマ別にまとめると、「学級・人数について」が329件、「学校の規模・配置について」が157件、「学区の分け方・選択について」が154件などとなっています。また、未就学児調査での意見数は11件（11人）となっています。

静岡市の子どもたちにとって望ましい教育環境についてのアンケート

【集計・分析調査結果】概要版

令和4年10月 静岡市 教育委員会

〒424-8701 静岡市清水区旭町6番8号
TEL: 054-354-2505 FAX: 054-354-2472